

平成30年度石教研国語(小)部会

研究ガイド

平成30年5月発行 編集・文責:部会研究員 岩崎 晋也(西当別小)

今年度から、「伝え合う力を高める授業の創造～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～」という新たな主題で研究を進めて参ります。新学習指導要領にも受け継がれている言語活動の中でも、表現活動について、児童の実態に応じて工夫し、サークルや授業者の持ち味を生かした授業づくりを進めていただきたいと思います。そこで、指導案の形式については、まず児童の実態を明らかにし、それに対応した表現活動を考察する形としました。そして、目指す表現活動のために、「表現のしくみ」系統表をどう活用し、どんな読解のプロセスを経るのかを明らかにしていく形としました。

(参考)

平成30年度の研究について

I 研究主題

「伝え合う力を高める授業の創造」

～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～

II 研究仮説

言語を手掛かりとした論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う表現活動を工夫することにより、児童に伝え合う力を育てることができる。

III 研究領域

「読むこと」領域の「文学的文章教材」における「表現活動」場面

IV 研究の柱

- (1) 「思考力、想像力」を高めるための表現活動の実践…「表現のしくみ」系統表の活用を通して
- (2) 6年間の指導事項の系統性を念頭において、身につけさせたい力を明確にした学習指導

V 研究方法

- (1) 平成30、31年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。
- (4) 実技理論研修会を開催し、今研究に関わる学習および日常の実践に生きる学習の場を設定する。
- (5) 第25期に作成した「『表現のしくみ』系統表」を改訂し、年間指導計画作成の際に役立てられるよう、HPにも掲載する。

1. 指導案の統一形式

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

第〇学年 国語科学習指導案

日 時 2018年〇月〇日()〇校時
 児 童 〇〇市立〇〇小学校 〇年〇組
 男子〇名 女子〇名 計〇名
 指導者 〇 〇 〇 〇

1, 単元名「〇〇〇〇」 教材名「〇 〇 〇 〇」

- 2, 国語科に関わる児童の実態
- ・「話すこと・聞くこと」
 - ・「書くこと」
 - ・「読むこと」
 - ・「言語事項」

まず児童の実態を明らかにし、それに対応した表現活動を考察します。
 ここでは、表現活動にかかわる「話すこと・聞くこと」「書くこと」の部分について特に詳しく取り上げ、子どもにつけさせたい力にかかわることを記述してください。

3, 本単元で身につけさせたい力
 身につけさせたい力と、そのためにどんな表現活動をとるのかを記入してください。

小学校6年間を見通した「表現のしくみ」系統表を参照して記入して下さい。

4, 教材について

- (1) 筆者について
- (2) 単元について（「表現活動」「教材について」など）
- (3) 文章の特色

(2) 単元について（「表現活動」「教材について」など）
 …この単元で、どのような言語活動（表現活動）を取り入れるのか。
 (3) 文章の特色
 …この文章がどのような文章構成であるのか。

5, 単元の目標
 「読解場面」と「表現活動場面」の目標の二つを立ててください。

6, 指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1		
2		
3		
4		
5		

7, 本時の目標

8, 本時の展開 (導入 → 展開 → まとめ)

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入		※「はたらきかけ」と「主発問」を記載する。	
展開			
まとめ			

9, 板書計画

10, 本時で特に取り上げるべき語句（必要に応じて）

11, 資料～ワークシートなど

2. 指導案例

※上記の形式を踏まえ、ここでは、4年生の指導案を例として示します。

第4学年 国語科学習指導案

日 時 2018年○月○日 () ○校時
児 童 ○○市立○○小学校 4年○組
男子○名 女子○名 計○名
指導者 ○ ○ ○ ○

1, 単元名「想像を広げて日記を書こう」

教材名「白いぼうし」

2, 国語科に関わる児童の実態

「話すこと・聞くこと」(省略)

「書くこと」

家庭学習ノートに日記を書かせているが、時系列に出来事を並べ、順番に綴っているだけという児童がほとんどであり、その時の心情やその変化まで記述しているものは少ない。情景描写についてもほとんどなく、周りの様子が伝わってこないものがほとんどである。量を書くことにはそれほど抵抗感を示さないが、文字数が多ければそれでよいという意識が感じられる。またその文字も、相手(読み手)を意識した丁寧さとは言い難く、読んでもらうという意識があまり高くないことがうかがわれる。

また、心情が書かれていたとしても、語彙の少なさからか、「すごい」などの一言で表現してしまうことが多い。例えば、サッカーでの友だちの活躍を紹介する作文では「○○さんのシュートがすごかったです。」といったものである。このことから、的確な言葉を選び、伝えたいことの内容の中心を捉えて、心情の移り変わりや性格などを相手にわかりやすく伝えようとする力を育てたいと考えた。

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」に分け記述してください。
- ・これまでに学習した教材や指導内容をもとにした現状と課題
 - ・これまでに経験している言語活動の種類や内容
 - ・今年度、児童に身につけさせたい力
 - ・現在の取り組みと今後の見通し など

3, 本単元で身につけさせたい力(「表現のしくみ」系統表より)

設定：伏線①「登場人物の性格、特徴」

- ・中心人物である松井さんの心情の移り変わりや性格を読み取らせたい。そして、読み取ったことをもとに、松井さんになったつもりで日記を書く表現活動を取り入れたい。

技法：情景・行動・心情描写(色彩語)

- ・初夏を思わせる鮮やかな色彩が随所に描かれ、また作品全体をほのかな夏みかんの香りが包んでいる。場面の様子や人物の心情を想像するだけでなく、作品を彩る表現の工夫にもぜひふれながら読み進めたい。

重点指導事項：会話文と地の文

- ・中心人物である松井さんの心情の移り変わりや性格、情景（色彩語）などを読み取らせるために、地の文と会話文を意識させたい。

4, 教材について

(1) 筆者について

あまん きみこ

1931年、旧満州に生まれる。本名、阿萬紀美子。日本女子大学通信教育部のスクーリングで受講した与田準一の講義をきっかけに、児童文学の創作を始める。（以下省略）

(2) 単元について

・表現活動

表現活動として設定したのは、「松井さんになったつもりで日記を書く」というものである。日記は、それを書く人物（松井さん）の心情を表現するのに適している。さらに、その書きぶりから、書き手（松井さん）の性格までもがにじみ出るものである。学習者である児童は、松井さんになったつもりで日記を書くために、物語の叙述を丁寧に読み、松井さんの心情を表している叙述を見つけようとする。（以下省略）

・教材について

この作品は、タクシー運転手の松井さんが、不思議な女の子を乗せて走るファンタジーである。四つの場面をとおして、色彩やにおいなどの特徴的な表現を使いながら、登場人物である松井さんの温かい人柄を描き出している。読み手である児童は、松井さんの気持ちに共感しながら読んでいく。（以下省略）

(3) 文章の特色

タクシー運転手の松井さんが、田舎から送ってきた夏みかんを車に乗せて走っているという場面から物語は始まっている。お客の紳士との会話の場面からは、松井さんの優しい人柄がうかがえる。

紳士を降ろした後、道に落ちている白い帽子に気づき、その帽子をつまみ上げると、中からもんしろちょうが飛び出す。松井さんは、ちょうの代わりに、車にあった夏みかんを置いて白い帽子をかぶせた。（以下省略）

5, 単元の目標

- ・松井さんの行動や気持ちを考えながら読むことができる。
- ・松井さんになったつもりで、「この日」のできごとを日記に書くことができる。

6, 指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	本文を読み、登場人物の日記を書くという活動の目あてをもつことができる。	松井さんになったつもりで日記を書くという単元の活動について見通しをもつ。
2・3	松井さんの性格や場面の様子を想像しながら、この物語の四つの場面を読むことができる。	松井さんが出会った人物や、もの・ことを場面ごとにまとめ、その時の松井さんの気持ちを書く。
4		書いたことをもとに、松井さんの性格について話し合う。

5・6		この物語の地の文でたくさん使われている、においや色を表す言葉を書き出して、場面の様子を想像する。
7 (本時)	松井さんになったつもりで、「この日」の出来事を日記に書くことができる。	今までに学習したことを生かす。

7, 本時の目標

松井さんになったつもりで、「この日」の出来事を日記に書くことができる。

8, 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導 入	1. 日記に書き入れることができそうなポイントを振り返る。(松井さんの性格、行動、想像した心情など) 2. 学習課題を確認する。	○今までのノートなどをもとに学習を振り返らせる。	○児童が振り返りやすいように今までの学習を模造紙にまとめて教室掲示する。
松井さんになったつもりで、「この日」のできごとを日記に書きましょう。			
展 開	3. 日記を書くためのポイントを確認する。 4. 日記を書く。 5. 読み直しをする。	○書くための条件を確認する。 ①松井さんの性格や行動の特徴、心情を考えて書く。 ②「今日は、不思議なことがありました。」から書き始める。 ③字数制限を設ける。 ○机間指導をし、途中でも共有すべき点があれば確認する。 ○なかなか進まない児童への対応として、時間を区切り、何人かの日記を途中まででよいので交流する。 ○日記を書き終えたら、誤字脱字や条件などの見直しをさせる。	○児童が条件をいつでも確認できるように、電子黒板に表示させておく。 ○取り組みの早い児童には、においや色なども取り入れて書くように伝える。
ま と め	6. グループで読み合う。 7. グループの中でどんな表現があったか全体で交流する。	○条件に合ったよい表現を見つけさせる。	◎条件に合った日記を書いている。

9, 板書計画 (省略)

10, 本時で特に取り上げるべき語句 (省略)

11, 資料～ワークシートなど (省略)

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。 【文責: 研究員 岩崎 晋也(西当別小)】